

使用済燃料再処理機構 第66回運営委員会 議事概要

- 1 開催日時 2023年9月13日(水) 14:30~16:30
- 2 開催場所 外部会議室
- 3 出席委員 近藤駿介(委員長)、山口彰(委員長代理)、
小澤俊朗、梶川融、佐久間総一郎、塩越隆雄
出席理事 佐藤敏秀(理事長)、河合雅彦、板垣雄士、出光一哉、伊原一郎
同席者 山上圭子(監事)

4 議事の経過および結果

(1) 委員会の成立状況の確認

本日の運営委員会の出席者は11名であり、定款第11条第1項に定める運営委員会の成立要件である総数の過半数が出席しているため、本委員会が成立したことを確認した。

(2) 議案審議および自由討議

a. 主な業務の執行状況について

理事長から、主な業務の執行状況について報告を受けた。

委員から日本原燃の再処理施設のしゅん工に向けた審査対応等について、地盤モデルの検討に時間を要するとのことであるが、第1回の設工認において地盤モデルの検討をしているのではないかと、なぜ時間を要するのかとの質問があり、理事より第1回の設工認は対象設備に限られていたが、今回は広範囲にわたる建物や設備が対象であり、これまで得られたデータと追加ボーリング調査等で得られるデータの全てを勘案して、一から地盤モデルの検討を行うことになったものと日本原燃から聞いている、と回答した。

機構として、今後も日本原燃の審査対応の進捗を確認するとともに、日本原燃でのIAEA 査察カメラによる監視の一時中断(予備系統の電球切れ)事象についても、日本原燃に原因と対策を報告するよう要請しており、今後運営委員会で確認していくこととした。

<添付資料>

[「主な業務の執行状況」](#)

b. 再処理事業等に関する実績確認について

事務局から、2022年度の再処理事業等の費用支出等に関する実績確認結果について報告を受けた。委員から再処理事業等の事業費は増加しているが、一方で日本原燃が効率化にも取り組んでおり、その点は評価すべきであるとの意見が示された。

c. コンプライアンスの推進状況及び業務情報の管理状況について

担当理事から、コンプライアンスの推進状況と業務情報の管理状況について報告を受けた。それらの内容をもとに自由討議を行った結果、委員から、コンプライアンスの推進に関しては、来年4月に機構に新たに加わる廃炉推進業務を担う役職員に対しても、みなし公務員としての意識づけを計画的に行うことに配慮しつつ、継続して取り組んでいくこと、実効性のある推進体制・対応体制を継続していくことといった意見が示された。事務局においてこれらの意見を踏まえた業務運営を行っていくこととした。

d. これまでの業務実績と今後の課題について

事務局から、これまでの業務実績と今後の課題について説明を受けた。その内容に関して自由討議を行った結果、委員から、情報セキュリティの確保に関して、昨今世間一般で顕著となっているサイバー攻撃からの防護の観点から、アンテナ高く様々な対策を検討し、取り組んでいくことが重要との意見や、情報セキュリティ事故の発生を未然に防止するには、職員数が少ない組織においては、職員の意識の徹底や職員に対するしっかりした教育が有効との意見が示された。事務局においてこれらの意見を踏まえた業務運営を行っていくこととした。

(3) その他

委員長は、議事概要に記名押印する者として、委員長の他、山口委員長代理および佐藤理事長の3名を指名したい旨を提案したところ、全員異議なく賛成した。

本運営委員会の議事の経過概要およびその結果を明確にするため本議事概要を作成し、前記3名は次のとおり記名押印する。

使用済燃料再処理機構
運営委員会

委員長 近藤 駿介 印

委員長代理 山口 彰 印

理事長 佐藤 敏秀 印

以 上